

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果(伊丹市が所管するもの)

※次の各表における耐震診断の結果は、震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの建築物も、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模の地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※「耐震改修等の予定」欄には、「大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」(末尾の附表の区分Ⅲ)と評価される場合には、耐震改修等の必要がないことから「-」を、それ以外の場合であっても、耐震改修等の予定がある場合はその内容を記載している。

■体育館(一般公共の用に供されるもの)

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	伊丹市立伊丹スポーツセンター 体育館	伊丹市鴻池1丁目1番1号	体育館(一般の用に供されるもの)	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	Is/ Iso =1.27, CTU・SD =0.78, 0.3・Z・G・U=0.3	-	-	

■百貨店、マーケットその他の物品販売業を営む店舗

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
2	伊丹ショッピングデパート	伊丹市中央1-1	物品販売店	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is =0.63, q=1.01	-	-	

■車両の停車場又は船舶若しくは航空機の発着場を構成する建築物で旅客の乗降又は待合の用に供するもの

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
3	大阪国際空港ターミナルビル	大阪府豊中市蛸池西町3-555	航空機の発着場を構成する建築物で旅客の乗降又は待合の用に供するもの	—	—	—	—	
	中央ブロック部分			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(1997年版)(鉄骨が充腹材の場合)	Is/ Iso =1.00, Ct・Sd =0.48, 0.25・Z・G・U=0.25	—	—	
	第2フィンガーゲートラウンジ部分			一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第3次診断法」(2001年版)	Is/ Iso =1.06, Ctu・Sd =0.65, 0.3・Z・G・U=0.3	—	—	
	第1フィンガー(開港時)部分			改修工事中	改修工事中	耐震改修	平成28年(2016年)12月~2024年(令和6年)9月	
	第2フィンガー(開港時)部分							
	第3フィンガー(開港時)部分							
第4フィンガー(開港時)部分								
上記6箇所を除く部分	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版)	Is =0.61, q=1.00	—	—				

■保険所、税務署その他これらに類する公益上必要な建築物

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
4	伊丹市庁舎	伊丹市千僧 1 丁目 1 番地	庁舎	一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」	$Q_u/\alpha \cdot Q_{un}=0.37$, $GIs=0.29$	建替え	2020年(平成32年)4月~2022年(平成34年)3月	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
5	伊丹市立有岡小学校	伊丹市伊丹 7 丁目 1 番 1 号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	$I_s/I_{so}=1.23$, $C_t \cdot S_d=0.63$	—	—	
6	伊丹市立池尻小学校	伊丹市池尻 6 丁目 221 番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	$I_s/I_{so}=1.16$, $C_t \cdot S_d=0.30$	—	—	
7	伊丹市立稲野小学校	伊丹市昆陽 1 丁目 175 番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	$I_s/I_{so}=1.25$, $C_t \cdot S_d=0.37$	—	—	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
8	伊丹市立 荻野小学校	伊丹市荻野 2 丁目 11 番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD=0.38	—	—	
9	伊丹市立 神津小学校	伊丹市森本 1 丁目 8-1	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD =0.38	—	—	
10	伊丹市立 昆陽里小学校	伊丹市山田 2 丁目 1 番 2 号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD =0.40	—	—	
11	伊丹市立 桜台小学校	伊丹市中野西 4 丁目 100	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.21, CT・SD =0.55	—	—	
12	伊丹市立 笹原小学校	伊丹市南野 6 丁目 5 番 33 号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.31, CT・SD =0.38	—	—	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
13	伊丹市立 鈴原小学校	伊丹市御願塚 6丁目3番1号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.20, CT・SD =0.35	—	—	
14	伊丹市立 摂陽小学校	伊丹市昆陽南 2丁目1番55号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.18, CT・SD =0.40	—	—	
15	伊丹市立 天神川小学校	伊丹市荒牧南 3丁目17番12号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.28, CT・SD =0.77	—	—	機械室棟 2020年度（平成32年度）までに改修予定 Is /Iso=0.90 C _{TU} ・S _D =0.57 0.15・Z・G・U =0.15 Z=1.0 G=1.0 U=1.0
16	伊丹市立 花里小学校	伊丹市寺本3 丁目135番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD =0.39	—	—	
17	伊丹市立 瑞穂小学校	伊丹市瑞穂町 3丁目50番の1	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.31, CT・SD =0.46	—	—	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
18	伊丹市立 緑丘小学校	伊丹市高台 2 丁目 14 番地	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD =0.45	—	—	
19	伊丹市立 南小学校	伊丹市御願塚 2 丁目 6 番 1 号	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.26, CT・SD =0.42	—	—	
20	伊丹市立 荒牧中学校	伊丹市荒牧 5 丁目 2 番 18 号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.26, CT・SD =0.42	—	—	
21	伊丹市立 北中学校	伊丹市清水 4 丁目 3 番 1 号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.20, CT・SD =0.54	—	—	
22	伊丹市立 天王寺川中 学校	伊丹市鴻池 3 丁目 4 番 28 号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.18, CT・SD =0.36	—	—	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
23	伊丹市立西中学校	伊丹市昆陽東4丁目2番地5号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.19, CT・SD =0.40	—	—	
24	伊丹市立東中学校	伊丹市高台2丁目54番地	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.25, CT・SD =0.47	—	—	
25	伊丹市立松崎中学校	伊丹市山田2丁目1番1号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.16, CT・SD =0.32	—	—	
26	伊丹市立南中学校	伊丹市南町2丁目4番1号	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.16, CT・SD=0.33	—	—	
27	伊丹市立伊丹特別支援学校	伊丹市鴻池1丁目8番6号	特別支援学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（1990年版）	Is /Iso=1.28, CT・SD =0.41	—	—	

■学校（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程若しくは特別支援学校）（小、中、特別支援学校別 50音順）

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
28	兵庫県立 こやの里特別 支援学校	伊丹市瑞ヶ丘 2丁目3-2	特別支援 学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	Is / Iso =1.26, CTU・SD =0.40, 0.3・Z・G・U=0.37	—	—	(U=1.25)

附表 耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)		$IS < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)		$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.15$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \leq C_T \cdot S_D \leq 1.25$
				$1.25 < C_T \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)		$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_{TV} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{TV} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1997年版)	鉄骨が充腹材の場合	$Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_T \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_T \cdot S_D$
	鉄骨が非充腹材の場合			
一般財団法人建築保全センターによる「官庁施設の総合耐震診断基準」		$Q_u/\alpha \cdot Q_{un} < 0.5$	$0.5 \leq Q_u/\alpha \cdot Q_{un} < 1.0$	$1.0 \leq Q_u/\alpha \cdot Q_{un}$ かつ $GIs < 1.0$
				$1.0 \leq GIs$

I. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

II. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。

III. 大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

※震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示す。

いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはない。

※表に掲げる補正係数Z、G、Uについては、備考欄に記載のある場合を除き1.0である。